

“放射光”創刊号によせて

日本放射光学会会長
高良 和武



このたび多数の研究者のご要望とご協力のもとに、日本放射光学会が設立されたことはまことに同慶にたえません。その初代の会長に選ばれましたことを大変光栄に思いますとともに、その責任の重大さを感じております。放射光学発展のために、微力を尽す覚悟です。会員各位のご援助、ご鞭達を心からお願い致します。

さる4月23日、総会と第一回年会が開かれ、その機会に記念講演会が催されましたがそれらは多数の参加をえて、盛況裡に終えることができました。そして、ここに学会の機関誌“放射光”の第1号を送る事ができることは嬉しい限りであります。これは、設立準備会において、多くの第一線の研究者たちが、一年以上にわたり続けてこられた献身的な努力によるもので、この機会をかりて、学会を代表して御礼を申し上げます。

“放射光”の創刊にあたって、日本学術会議会長の近藤先生から御祝詞を戴きました。我が国の各方面の研究者からのご期待に応え、放射光学が科学技術の広範な分野で一層役立つ様、努力したいと思えます。また、海外の多くの研究施設からも暖かい御祝詞を頂きました。これは、世界中の学者が放射光の魅力にとりつかれ、あるときは協力しあるときは競争して、ともに研究を進めてきた間に育った友情、連帯感の証であると思えます。この素晴らしい貴重な伝統を守り、さらに発展させてゆきたいと考えております。

ご承知のように、放射光学の最近の発展には誠に目覚ましいものがあります。とくにその根源となる光源の進歩は驚異的で、例えば波長1オングストロームのX線の輝度は、10年前には、在来の最強力X線管の約1万倍になっていましたが、この10年間にさらに1万倍になりました。現在の技術の確実な延長線上で、これからの10年間に、さらにその1万倍以上になるものと推定されます。このような進歩は科学技術の歴史においても、極めて稀なことであります。このような恵まれた条件の下で、新しい研究分野が続々と現れているのは当然であります。我々の前には、さらに未知の広大な分野が横たわっていることは疑いありません。

放射光学は基礎研究のみならず、医学、産業など応用研究にも大きな役割を果たしつつあります。我が国には、数カ所の放射光施設において、2,000人におよぶ研究者が活動していますが、さらに基礎研究用および産業用施設の計画ないし建設が爆発的に進められ

ております。海外においても放射光の利用と施設の建設が、急ピッチで進められていることもよく知られております。

放射光学の分野は広範で、またその進歩発展はまことに急速です。このような事態に対処し、放射光学の一層の発展を計るために、放射光学会が設立されることになったわけがあります。本学会が各分野での重要な研究の成果や動向などを正確かつ迅速に知る一助となるとともに、それぞれの研究者が、あくまで研究者個人の立場から分野の壁や組織の枠を超えて、自由な開かれた雰囲気の中かで、率直で活発な情報や意見の交換が行われる場所を提供し、共通の学術的・技術的課題の解決、新分野の開拓や実り多い将来計画の実現に役立つことを願っています。

本学会は放射光に関する学会としては世界最初のものであり、海外の研究者たちからも強い関心が寄せられております。本学会の学会誌や講演会、研究会においては、多くの場合、残念ながら日本語が使用されると思います。しかし本学会は、海外の研究者にも開かれております。学会が我が国における研究の最新の成果、研究の動向や将来計画等に関する貴重な情報源となり、さらに進んで国際的な情報交換あるいは討論の場ともなり、我が国の基礎研究が世界の科学技術の発展に貢献するうえで、先駆的な役割を果すことも願う次第であります。